

研究課題番号	4RF-2301
研究課題名	生物多様性ビッグデータの持続的創出に資する環境DNA分析手法の高度化
研究実施期間	令和5年度～令和7年度
研究機関名	横浜国立大学
研究代表者名	中臺 亮介

1. 評価結果

評価ランク：A

2. 委員の指摘及び提言概要

環境DNAを利用することで種多様性と種内遺伝的多様性を同時に評価する試みは学術的にもチャレンジングであり、調査時の時間的・費用的コストの削減にもつながり、効率よく多様性を評価するうえで環境業にも貢献できる可能性を秘めていることを評価する。一方で、新しい技術が持つ精度について考えると、水槽については精度評価がある程度確認できるが、水族展示、野外における精度評価は難しい。偽陽性、コンタミの可能性も指摘しているが、これは解決すべきかなり基本的な課題と思われる。今後成果を発表してゆくにあたっては、学術的に新規性の高い内容はあくまで、英文の専門学術雑誌に査読を経て発表してゆくことを心がけて頂きたい。